

韓国日常トゥーンに表象される青年世代の感情の構造の変化

東京大学大学院 金イェジ

1. 目的

ウェブトゥーンとは、ウェブ (Web) とカートゥーン (Cartoon) の合成語であり、2000年代初頭、韓国のインターネット・コミュニティを中心に登場・成長した韓国特有の漫画形式である。日常トゥーンはウェブトゥーンの下位ジャンルであり、作家自身が主人公として登場し、自分の体験談をまるで日記のように記録するエッセイ形式の漫画である。日常トゥーンは青年世代によって生産・消費される傾向が強いため、青年世代を代表するウェブトゥーン・ジャンルと言っても過言ではない。したがって、日常トゥーンを通じて今日の青年世代が共有する集合的感情を読み取ることができると考えられる。

以上の問題意識から本研究は、日常トゥーンにその時代の「感情の構造」 (structure of feeling) が表象されることを想定し、日常トゥーンに投影される感情の問題に注目する。日常トゥーンにあらわれる感情の構造の変化を追跡し、今日の日常トゥーンに表象される感情の構造の社会的含意を考察することがこの報告の目的である。

2. 方法

漫画表現学的方法を活用し、日常トゥーンのテキスト分析を行う。漫画表現学とは、漫画を分析する際にナラティブに加え、漫画を構成する多様な要素、すなわち演出、キャラクター、擬態語、擬声語、漫画的記号 (形喩) などを複合的に扱う方法論である。本研究では日常トゥーンに表象される感情形式を効果的に抽出するために、漫画表現学的方法を活用する。

3. 結果と結論

分析結果、個人ホームページで公開された第1世代日常トゥーン作品 (2000年前後～2006年) においては「思索」、「喪失」、「孤独」、「無気力」、「空虚」などの要素を含む「憂鬱」の感情形式がみられた。一方、ウェブトゥーン・プラットフォーム (Webtoon platform) で公開された第2世代日常トゥーン作品 (2006年前後～現在) においては「幸福」、「愉快」、「親密感」など、「明朗」という概念で要約できる感情形式がみられた。すなわち、日常トゥーンに表象される感情の構造は世代により「憂鬱」から「明朗」へと変化したことが確認できる。

日常トゥーンにみられる感情の構造の変化は、未来への希望が消滅しつつある憂鬱な青年世代の感情の構造が逆説的に表出されたものとして解釈することができる。今日、韓国で青年世代は「生存すること」自体を生目的とする、いわば「生存世代」として表現される。日常トゥーンは生存世代により生産・消費される代表的なコンテンツである。今日の日常トゥーンにあらわれる「明朗」という感情形式は、生存主義世代が共有する不安や恐怖という集合的感情がウェブトゥーン・プラットフォームのエンターテインメント的特性と結合し、「内射される」方式で極体化された結果であると要約することができる。

一方、日本でも「生存」、「放棄」、「現在主義」など、韓国と類似した青年世代イメージが存在するが、それが漫画に表象される方式は韓国と異なるように見える。その差異は日韓青年世代漫画の比較可能性を示唆し、後続研究として韓国青年世代を代表する日常トゥーンと日本青年世代を代表する漫画との比較研究が可能であると考えられる。